

自治会への支援は

Q 自治会の役割を、どのようにとらえているのか。

A 香取市では310の自治会が、それぞれの歴史や地域の実情を踏まえ、様々な活動を行い、地域で暮らす方々の安心で安全な日常生活を支えていると認識しています。

Q 自治会が直面している課題について、把握しているのか。

A 自治会等から、地域の人口減少や高齢化等により、役員となる担い手不足や、地域の環境整備活動の実施に苦慮しているという相談を受けることがあります。

Q 自治会の役員を市役所職員が担っているだけないかと人的支援の要請の声があるが、どうか。

A 任意団体のため、市役所職員が職務で役員になることは難しいと考えます。

地区防災計画の策定の支援は

Q 地区防災計画の策定に対して、どのような後押しをしているのか。

Q 地区防災計画の策定に香取市として、どのように取り組むのか。

A 災害時に命を守るためには、住民同士が支え合い、地区内の全ての住民が助かるように準備することが重要であり、地区防災計画はその取り組みの基本となります。今後は、当該計画の策定に向けて重要となる、更なる市民の防災意識の向上や幅広い分野の関係者との連携のため、庁内で横断的に取り組みを進めていきます。



たしろ かずお
田代 一男 議員

QRコードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

在宅医療の拡充を

Q 地域包括支援センターの機能強化の現状は。

A 2か所の地域包括支援センターを核として、関係機関との連携や高齢者等への相談支援等に取り組んでいます。

Q 香取市の介護予防、集いの場の現状は。

A 令和6年9月末現在、集いの場として地域サロン30か所、162人が参加しています。

Q 香取もりもり体操の効果は。

A もりもり体操の実施地区と未実施地区から抽出し、介護申請率を比較すると、未実施地区は平均6.5%増加し、実施地区は逆に平均1.3%減少したとの結果が出ています。

官民一体となった水害対策の推進を

Q 土地改良区が管理する水門の自動化への補助は可能か。

A 土地改良区に関する事業メニュー等に対応できると考えますが、施設の規模や状況を考慮し、個別に検討する必要があります。

Q 大倉排水機場の建て替えの補助は可能か。

A 建て替えは、水郷土地改良区、千葉県、香取市による協議が行われています。「香取市土地改良事業等補助金交付要綱」に基づき負担していきます。

Q 香取市社会福祉協議会と災害ボランティアセンターに関する協定を結んだが、現在の状況は。

A 役割分担や協力事項等を明確化することなど、被災者のニーズを踏まえた災害ボランティアセンターの円滑な設備・運営のための協力体制を確認しました。

Q 災害時を想定した「親子防災訓練」を行う団体がある。積極的に奨励すべきではないか。

A 将来の地域の防災活動の担い手を育成する観点からも大変重要なことと理解しています。



まえだ まさゆき
前田 誠之 議員

QRコードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

学校教育における「チーム担任制」の導入を

Q 「チーム担任制」のメリットは、どこにあるのか。

A 主に、授業力の向上、若年層教員の人材育成、児童生徒がより多くの教職員と触れ合う機会の増加、教職員の負担軽減等があります。

Q 香取市の小中学校の教員は、今後10年間で何名が定年を迎えるのか。

A 今後10年間のうちに定年は65歳まで延長される見通しです。試算では95名の教職員が定年予定で、現在の市内小中学校教職員全体の23.6%になります。

Q 香取市でも「チーム担任制」を導入することを提案するが、見解は。

A 「チーム担任制」は、多くのメリットがある一方で、小学校において担当教科以外の授業力の向上や児童生徒の情報交換に要する時間確保、責任の所在の明確化といった点で課題もあります。これらを総合的に勘案するとともに、従来から行われてきた少人数指導や小学校専科のより効果的な活用も積極的に取り入れながら、充実した学校運営の在り方を研究し、実践していきます。

※「チーム担任制」…学級担任を一人に固定しないで、複数の教員で学級運営を分担する方法。

香取市デマンド交通「かとくる」の現状は

Q 委託する各事業者と「かとくる」の運行に関する交渉の状況は。

A バス以外の公共交通が少ない山田・栗源地区の「区域運行」の実証運行を行うこと。廃止される路線バス、循環バス利用者の移動を確保するため「ルート運行」を行うこと。さらに栗源地区に隣接する佐原地区の一部エリアも区域運行のエリアへ含めることで交通事業者と協議がまとまりました。

Q 運行体系を統一していくための今後の取り組みは。

A 「かとくる」の運営事業者、運行事業者との定期的な運営会議を通じて、協議を継続しています。

Q 香取市内でライドシェアの勉強会を立ち上げた団体がある。香取市の認識は。

A 持続可能な地域公共交通を考える場合、とても有効であり、モデル地区になるようにこれからも支援していきます。

Q 機能強化をする成田空港と香取市を繋ぐことが必要と考える。香取市の認識は。

A 成田空港周辺自治体である香取市にとって、移住・定住の促進や地域振興に繋げる好機と捉えているため、有効な交通手段を検討していきます。